ワーキングイノベーション

集中力・創造力引き出す空間

快適なオフィスへ知恵絞る

日本は高齢化とともに人口が減っていく成熟社会を迎え、貴重な労働力として女性の活躍の舞台が広がった。また、経済のグローバル化を背景に企業は海外展開だけでなく国内で積極的に外国人社員を採用するようになり、オフィスで日本人が外国人と机を並べて働く光景も当たり前になりつつある。企業にとって働き方の多様性（ダイバーシティー）への対応は、避けられない命題だ。

どれだけ優秀な人材を集めても、旧態依然の画一的なオフィスでは能力を引き出しきれない。これからは、多様な人々が一緒に働けるオフィスが求められる。職種も勘案して、どんな執務環境を整えたら〝良い仕事〟ができるのかを考える時代になった。

岡村製作所はコミュニケーション重視のオープン型オフィスに違和感なく仕切られた執務空間を配置し、個人が集中できる環境で独創力を引き出すことを狙った新しいオフィスシステム「マッフル」を提案している。「集中とコラボレーション（協業）」というコンセプトに基づき、高さや形状、色の異なるパーテーション（間仕切り）を多様に組み合わせてオフィスを形作る。

確かにブレーンストーミングでも、いきなり社員が集まって始めたのでは優れたアイデアは出にくい。事前に与えられたテーマについて個々人が考え、各自それを持ち寄って議論してこそ、優れた成果が期待される。まず個人が集中できる環境を整え、その上でディスカッションの場があるオフィス空間の提案だ。

パーテーションには人をやさしく包み込む曲面形状を多用し、柔らかく圧迫感がないファブリックの表面材が気持ちをリラックスさせる。これまでのオフィスになかった多彩な仕切りパターンにより、外部からの視線や雑音を適度に遮って余分な緊張感をほどよくコントロール。カラーバリエーションとユニット構成も豊富で、多様な空間と働き方に応えられるようにした。

これまでオフィスの歴史は、コンピューターの進化の歴史だった。電卓が計算尺やソロバンに取って代わり、ワープロが登場。オフコンはパソコンへと進化し、今では1人1台が当たり前だ。さらにタブレット端末（携帯型情報端末）が普及して、どこにいても必要な情報が得られる時代になった。情報化が個人レベルまで浸透し、オフィス環境の整備はそこで働く人々の嗜好（しこう）や性格への配慮、集中力・創造力を引き出す雰囲気づくりなど、メンタルな部分まで追求されるようになっている。

ハードからメンタル重視

良い仕事 できる環境めざす

プラスは昨秋、東京・九段北にオフィス家具部門の営業・開発拠点「プラスファニチャーカンパニー（PFC）東京オフィス」を開設した。東京・赤坂にあった同部門の事務所移転に合わせ、同社製品による実際の執務環境を公開する〝ライブショーケース〟として整備。試作品のモニタリングや機能検証にも利用する。

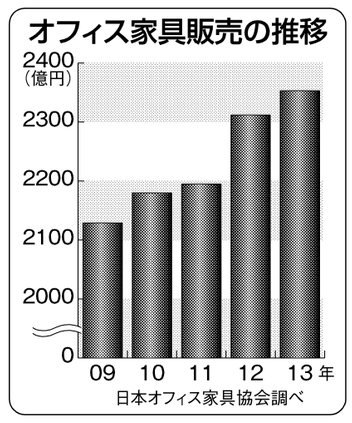
コンセプトは「アトリエ&カフェ」。オフィス家具の実験・検証・実体験を積み重ねて製品を生み出すアトリエとしての機能に加え、従来のフリーアドレスから一歩進んで随所にカフェをイメージさせるインテリア空間を設け、心身のリラックスが集中力を引き出して〝コトとモノを創り出すオフィス〟を実証する狙いだ。

PFC東京オフィスを構えたビルは新築ではなく、入居時で築24年。11階建てで標準階のフロア面積が約1150平方㍍という市街地の風景をなす一般的なオフィスビルだ。だが、PFC東京オフィスは最新のオフィス家具に合わせて内装もリニューアルされ、古さを感じることはない。企業の大部分を占める中小企業をターゲットに、着実に需要を掘り起こす戦略を採る。

一方、新たなワークスタイルの追求が、オフィス家具メーカーと異業種のコラボレーションも生んでいる。イトーキは9月上旬、オフィスに専用マシンを無料提供してコーヒー商品を販売するネスレ日本（神戸市中央区）と、コーヒーマシンの傍らで簡単なミーティングもできる専用テーブルを共同開発した。ネスレ日本がマシンと同様に原則無料でオフィスに提供する。

ネスレ日本がオフィス向けに展開する販売手法「ネスカフェ・アンバサダー」プログラムでコーヒーを飲みながらの社内コミュニケーションが見直され、同社からの働きかけで今回のコラボが実現。コミュニケーション促進はメンタルヘルス面でのケア効果も大きく、両社は〝オフィス環境、働き方のルールをちょっと変えよう〟をテーマに「ウエルネス・オフィス」プロジェクトとしてコラボを発展させていく。

これまでにアンバサダープログラムでオフィスなどに無料提供されたコーヒーマシンは2年弱で14万台に達している。まず共同開発した専用テーブルは大小2種類。ネスレ日本にとって新たな販促ツールになり、イトーキはテーブル納入をきっかけにオフィス空間づくりを提案する。



ネスレ日本とのコラボで開発した専用テーブル「カフェ・ネスカフェ・オフィス」（イトーキ）

オフィス投資 将来増える

経営者「人材育成」へ環境整備

オフィス家具メーカーの業界団体、日本オフィス家具協会（中村喜久男会長＝岡村製作所会長）は昨春、ユーザー企業の経営層（経営者・経営企画部門）を対象に実施したアンケート結果をまとめて公表している。それによると経営層の60％が「オフィス支出は投資」と回答。さらに投資と認識している経営層の57％が「将来のオフィス支出は増える」と予測した。長年、オフィス支出は「経費」としてとらえられてきたが明らかに変質し、経営層も関与を深めつつある実態が浮き彫りになった。

経営層に直近と将来に分けて重視する投資項目を尋ねたところ、いずれも1位は「人材育成」。オフィス環境の整備が〝人に対する投資〟としての側面を強めている。こうした状況を踏まえ、同協会も経営層に対する情報提供・啓発ためのセミナーやイベントを増やしている。

プラスのファニチャーカンパニープレジデントを務める北尾知道取締役はオフィス家具メーカーの立場から「オフィスはリクルーティングや社員のモチベーションにもつながる重要な投資対象。オフィス投資をサポートする会社として、アプローチしている」とスタンスを説く。

日本の産業が生き残るためには、新しい技術・新しい事業を創出し続けることが不可欠。オフィス家具メーカーはそれを実現する執務空間を模索し続けている。

適度に仕切られた執務空間を配置するオフィスシステム「マッフル」（岡村製作所）

PFC東京オフィス内にある床を高くした開放的なステージ空間（プラス）

（オフィス環境）

GR
GA-REW®
www.ga-rew.com
仕事率は現行品の3〜5倍！
技術の差がつくりだす、作業時間の差、コストの差。
太陽光パネルの洗浄に活かされる
ガリューの技術。
高圧洗浄用メカスイングノズル　HMS-140-5
特許第4926290号
高圧洗浄用メカスイングノズルは、噴射の反作用をトグル機構に応用することでノズルを左右に高速スイングさせ、噴射エネルギーを保ったまま広角噴射を実現する製品です。従来の高圧洗浄機より広い範囲をカバーできるため、効率よく洗浄作業が行えます。また、ノズルの高速スイングによって流体自体に運動エネルギーが与えられるため、効率的かつ効果的な噴射能力を発揮します。
●作業者は地面から全ての作業が可能。
●水量は従来の物と比較し、1/10程度に抑えることが可能。
●パネル1枚（1ブロック）の洗浄は往復1回で完了。
●洗浄面に対し垂直に洗浄可能。
●洗浄ノズルの位置の一定距離に保持できます。
●無理な作業姿勢をとる必要がなく、力も要らないので作業者の負担を大幅に軽減。
（ノズルの上下は吊降または押上する）
高圧洗浄用
メカスイングノズル
HMS-140-5
（ねじ調整タイプ）
New!!
高圧洗浄用
メカスイングノズル
HMS-140-5-OT
（ワンタッチ可変ノブタイプ）
高圧洗浄用シリーズラインナップ
太陽光パネル専用高圧洗浄システム
押上タイプ(2輪)
吊降タイプ(4輪)
ガリュー
メカスイングノズル
噴射イメージ図
照射角：約40度〜75度
※エアー式（ミストスプレー）押上タイプもございます。(高圧洗浄機と比較して水の使用量は約50分の1)
ガリュー http://www.ga-rew.com/
エアブロー　ガリュー　検索
〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-7　TEL.03-6765-0099　FAX.03-6762-0909
第10回 超モノづくり部品大賞 奨励賞 受賞